

2020（令和2）年度の温室効果ガス排出量について

旭川市環境部

1 本市の温室効果ガス排出量（確定値）

- 2020（令和2）年度の本市の温室効果ガス排出量は、2,798千t-CO₂でした。
- 前年度の排出量（3,098千t-CO₂）と比べて、9.7%減少しています。
- また、旭川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の基準年度である2005（平成17）年度の排出量（2,910千t-CO₂）と比べて、3.9%の減少となり、東日本大震災を契機にした原子力発電所の停止により、排出量が大幅に増加して以降、9年ぶりに基準年度を下回りました。

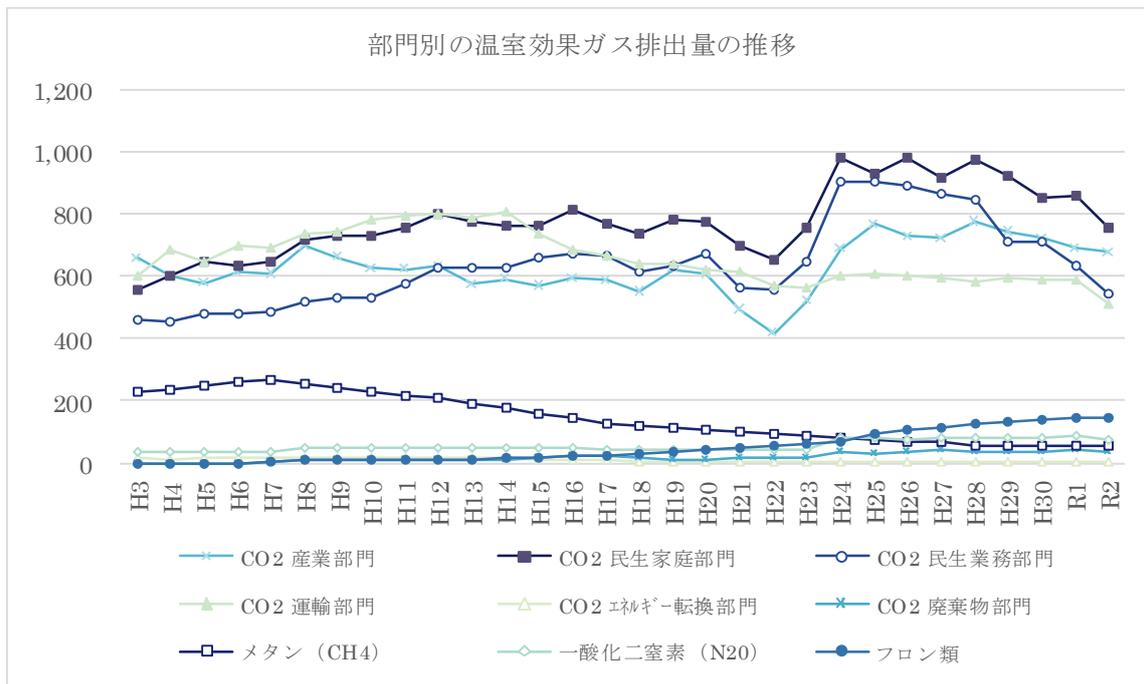
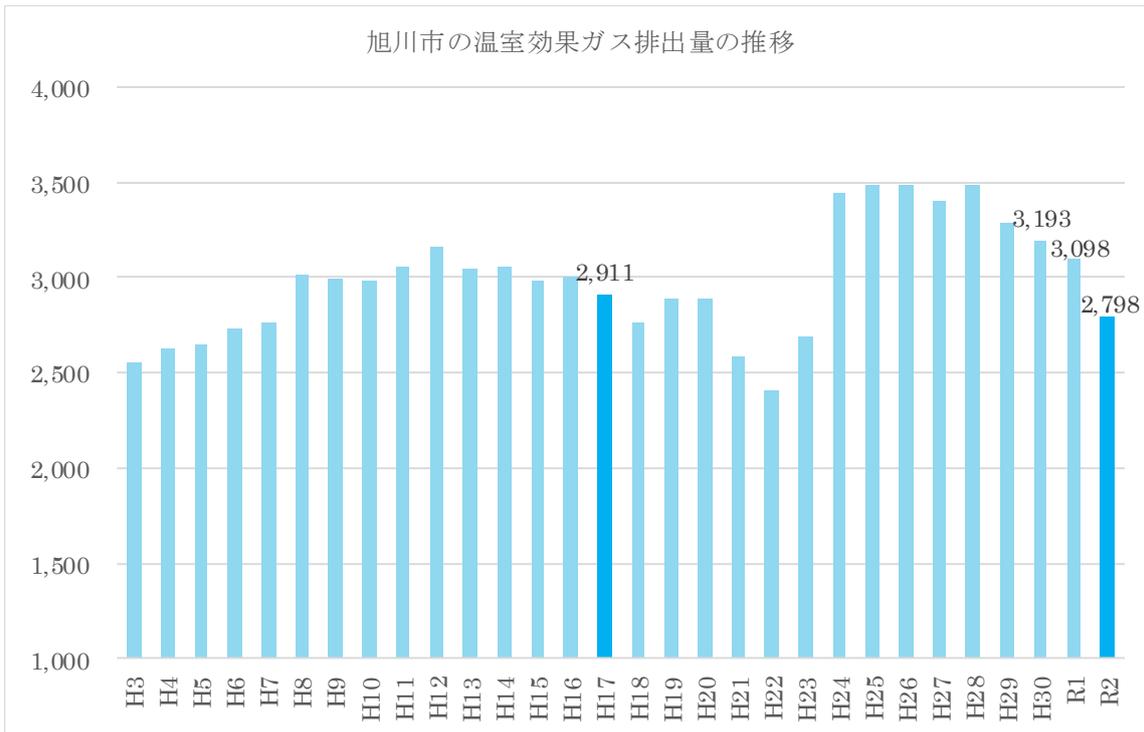
表1 2020（令和2）年度の温室効果ガス排出量

（単位：千t-CO₂）

| 区分 | 年度 | 2005(H17) 基準年度 | 2018(H30) | 2019(R1) | | 2020(R2) | |
|---------|-----------|-------------------|-----------|----------|--------|----------|--------|
| | | 排出量 | 排出量 | 排出量 | 前年度比 | 排出量 | 前年度比 |
| 二酸化炭素 | 産業部門 | 587 | 722 | 689 | -4.8% | 677 | -1.7% |
| | 民生家庭部門 | 766 | 856 | 862 | +0.7% | 755 | -12.4% |
| | 民生業務部門 | 667 | 711 | 631 | -11.3% | 542 | -14.0% |
| | 運輸部門 | 667 | 590 | 589 | -0.2% | 512 | -12.9% |
| | エネルギー転換部門 | 9 | 1 | 1 | 0.0% | 2 | +18.0% |
| | 廃棄物部門 | 20 | 36 | 39 | +8.3% | 34 | -12.7% |
| メタン | | 126 | 56 | 55 | -1.8% | 52 | -4.4% |
| 一酸化二窒素 | | 43 | 84 | 87 | +3.6% | 75 | -13.0% |
| フロン類 | | 25 | 137 | 146 | +6.6% | 147 | +0.4% |
| 合計 | | 2,910 | 3,193 | 3,099 | -2.9% | 2,798 | -9.7% |
| (基準年度比) | | — | +9.7% | +6.5% | | -3.9% | |

※ 単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

2 本市の温室効果ガス排出量の推移



(1) 総論（総量）

- 基準年度である 2005(平成 17)年度以降，減少傾向でしたが，東日本大震災を契機とした原子力発電所の停止により，排出量が大きく増加しました。
- その後，2016(平成 28)年度まで横ばいで推移し，2017（平成 29）年度以降，減少傾向にあります。
- 特に，2020(令和 2)年度においては，2011(平成 23)年度以来，9 年ぶりに基準年度を下回りました。

(2) 総論（部門別）

- 民生家庭部門からの排出が最も多く，全体の約 3 割を占めます。
- 次に産業部門，民生業務部門，運輸部門と続き，当該 4 部門で全体の約 9 割を占めます。

(3) 主な増減要因

前年度と比べて，10%以上の増減があった部門について，その要因を分析しました。

ア 民生家庭部門

都市ガスと比べて CO₂ 排出が 1.4 倍多い灯油の使用量が減少し，より排出係数の低い電力や都市ガスの使用量が増えていることから，電化・ガス化が進み，それに伴い，CO₂ 排出量も削減されたものと推察されます。

イ 民生業務部門

前年度と比べてエネルギー消費量が 6%減少したことなどに伴い，CO₂ 排出量が減少しています。これは，新型コロナウイルス感染症の感染拡大による営業時間短縮などの影響と推察されます。

ウ 運輸部門

自動車保有台数は大きく変わりませんが，ガソリンの燃料消費量が 15%減少したことなどに伴い，CO₂ 排出量が減少しています。これは，新型コロナウイルス感染症の感染拡大による外出自粛などの影響と推察されます。

エ エネルギー転換部門

上述のとおり，ガス化の進展により都市ガス製造に伴う LNG 使用量が 23%増加したことなどに伴い，CO₂ 排出量が増加しました。

オ 廃棄物部門

一般廃棄物中の廃プラスチック類の焼却量が 12%減少したことなどに伴い，CO₂ 排出量が減少しました。

カ 一酸化二窒素(N₂O)

本市内の企業における廃棄物燃料の使用量が 16%減少したことなどに伴い，一酸化二窒素(N₂O)の排出量が減少しました。